

高津戸ダム周辺では1996年ごろにカワウの飛来が確認され、数年後には県内有数のコロニーが形成された。今年7月の調査では過去最高の580羽を確認。カワウは1日500羽の魚を食べるとされ、アユをはじめとする周辺の漁業被害が深刻化している。ドローンの活用は同漁協

の中島淳志組合長が、水産総合研究センター（本部・横浜市）の坪井潤一研究員に依頼して実施。環境に配慮して、トウモロコシから作られた生分解性素材のビニールテープが使われた。作業ではボートからドローンを操作。上空50mまで

みどりで両毛漁協

両毛漁業協同組合（桐生市）は25日、みどり市大間々町の高津戸ダム上流で、小型無人機「ドローン」を使ってカワウの増加を抑制する対策に乗り出した。ダム湖周辺の樹木にカワウが嫌がる音を発するビニールテープを張ることで、コロニー（繁殖地）の分散による増殖を封じ込める効果が期待できるという。ドローンを使ったカワウ対策は日本初の試み。水産庁も視察に訪れ、新たな対策として安全な活用法を検討している。

上空50㍍の作業担当 嫌がる音出る テープを木に

漁協は河川敷にかかしを設置したり、魚の隠れ場をつくるなど対策に取り組んできた。中島組合長は「カワウを追い払っても周辺に分散するだけで問題は解決しない。高津戸ダムのコロニーがこれ以上広がらないようにして、ここでの増殖を防ぎたい」と話す。

ませるようにして固定した。テープが風にあおられてビリビリという音が鳴り、カワウを寄り付かせなくするという。

ドローン カワウ対策 空から



渡良瀬川の高津戸ダム上流で行われたドローンによるカワウ防除対策=25日

坪井さんはカワウ対策の専門家。「飛び去ってしまう鳥類を管理するのに、ドローンという飛び道具があるのは画期的。全国の漁協はカワウ対策に疲弊しており、これを呼び水に対策を

月によると、確認されている県内の繁殖地は4カ所、休息地は9カ所。カワウの個体数の増加に伴い、県内の河川や湖沼では、アユやヤマメなどの食害が問題となっている。県の直近の推計では、14年度の被害は県全体で187㌧、1億7900万円に上る。

ドローンをめぐっては人や家屋が密集する地域などの飛行を禁止する改正航空法が12月10日に施行され、水産庁は現在、カワウ対策にドローンが使えるよう国土交通省と協議中。使用団体には計画書の提出を求めるなどして、認める方向で調整している。

上毛新聞
平成27年11月26日(木)掲載